

九戸城跡の見どころ

冬の九戸城跡（二ノ丸から本丸を望む）

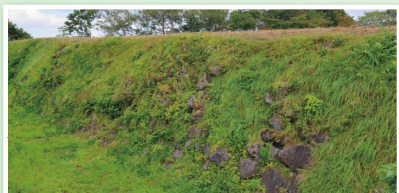
※写真の番号は周辺案内図（裏面）の番号と対応しています。



① 本丸西側の土塁と堀跡



② 深田堀から二ノ丸切岸を望む



③ 本丸南堀の石垣



④ 本丸から三ノ丸(市街地)を望む



⑤ 二ノ丸搦手から本丸を望む



⑥ 二ノ丸の古碑群



⑦ 石沢館と堀跡

春の九戸城跡（本丸）

九戸城跡ガイド

国指定史跡
続日本100名城

●九戸城の歴史（築城～廃城）

九戸城は、九戸光政が明応年間（1492～1501）に築城したといわれる平山城である。光政より4代後の九戸政実の頃、南部宗家の家督をめぐる、政実と南部信直との争いが激化し、天正19年（1591）、豊臣秀吉がおくった諸将の軍勢に包囲され落城した。その後、秀吉方の蒲生氏郷により近世の城郭に改修され、名を福岡城と改め、南部氏の本城となった。信直の子利直が盛岡城に本拠を移した後、寛永13年（1636）に廃城となっている。

●国指定史跡「九戸城跡」の価値

九戸城跡は、昭和10年（1935）に国の史跡に指定された。指定の理由は、日本史における歴史的舞台であったことのほか、東北最古級の石垣が残っていることや城郭の規模が大きかったことにある。

◆歴史的舞台◆

歴史的な舞台について、国の指定原文付記に「秀吉、秀次をして浅野、蒲生、堀尾等の諸将を率いて之を攻めしむ。政実防戦頗る努めたりしも衆寡敵せずして降り、茲に於て奥州地方平定し全国統一に帰せり」と記されており、この地は実質的に豊臣秀吉が全国統一を果たした最後の戦場であったといえる。

◆城郭の規模等◆

本丸の一部に残る野面積みの石垣は、穴太衆による構築とされ、東北最古級といわれている。また、本丸・二ノ丸・若狭館・石沢館・松ノ丸等で構成する城郭は、東北地方まれに見る大規模なものとなっている。

●九戸城跡の特色（九戸城と福岡城）

九戸城跡では、奥州に見られる中世城郭の特色をもつ九戸城と、西国様式（織豊系）の近世城郭である福岡城の、2つの時代の城郭を見ることができる。現在の本丸・二ノ丸・松ノ丸は、福岡城期の姿である一方、石沢館・若狭館は、九戸城期の特徴を色濃く残している。

中世から近世へと移る歴史の戦いの中に沈んだ九戸城。昭和14年（1939）、この地を訪れた詩人土井晩翠は、その悲話に接し、「荒城の月」を書き残している。（荒城の月のモデルとなった城は、九戸城のほか全国に数箇所あるといわれている。）

散策中の注意

- 城内の植物を採取しないでください。
- 急斜面には近づかないようにしてください。
- 所定の園路、広場以外に入らないでください。
- 土塁、石垣を崩さないでください。

Attention

- Please do not take plants from the castle grounds.
- Please stay clear of steep slopes.
- Please remain within designated areas.
- Please do not destroy earthworks and stone walls.

Summary

The ruins of Kunohe castle is an old battlefield where Hideyoshi Toyotomi had completed generalization of Japan. After the successful siege of this castle, the medieval period had come to an end. Just after the war, Hideyoshi ordered his men to improve this castle, and gave it to Nobunao Nambu, one of his men, a lord of this area.

周辺案内図

国指定史跡 九戸城跡

- 地形模型
- 案内板
- 名称板



包囲陣 は二戸郡誌の九戸城攻囲図による